

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H26 入学 現5年	68.0 (1.02)			74.0 (1.04)			
H25 入学 現6年	59.4 (0.97)	70.0 (0.99)	50.0 (0.93)	63.9 (0.98)	63.0 (1.00)	46.0 (0.90)	59.0 (0.97)
H30 正答率の全国比		(0.99)	(0.91)		(0.99)	(0.89)	(0.98)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現5年】

- ・国語、算数ともに県平均と同等の状況である。4年時12月調査では、算数に課題が見られたものの、徐々に改善されてきていると考えられる。日々の取組が学力の定着につながっている。

国語について

- ・「漢字の読み・書き」や「ローマ字」などに関しては、正答率が高い。日々の授業での取り扱いを丁寧に行ったこと、繰り返しの指導を行ったことの成果が表れている。
- ・文章の内容を踏まえ、与えられたものから適切に引用をしたり、条件に応じて要約したりすることに課題が見られる。無解答率が低いことから、何とか答えようとする姿勢は見られる。しかし、文章に過不足があることで、正答に至っていない。求められていることを適切に選ぶことができるように、中心となる言葉に着目した読み方ができるような指導を、授業の中で行う必要がある。

算数について

- ・観点別にみると、「技能」に関しては正答率83.9%で「十分達成」のレベルにある。習熟の時間を確保するだけでなく、補充の時間を設定し、学校全体として取り組んできたことの成果と言える。「考え方」「知識・理解」についても、全体的にみると「おおむね達成」のレベルを越えている。
- ・長さや重さ、面積に対する量感がつかめていない。学習した内容と生活を結びつける活動を設定したり、他教科との関連付けを行ったりしながら、学習したことを生かす力を身に付けさせる必要がある。

【現6年】

- ・国語、算数ともに県平均と同等の状況である。昨年度と比べて大きな変化は見られない。

国語について

- ・A問題については、正答率70%と県平均と同等の結果である。特に、漢字については、文の中で正しく使うことができしており、県および全国平均を5~7ポイント上回っている。
- ・敬語の使い方に課題が見られ、相手や場面に応じて適切に言葉を選ぶことができない。
- ・B問題については、県および全国平均を4ポイントほど下回っている。特に「書くこと」について落ち込みが見られる。話し手の意図をつかみ、自分の意見と比較しながら考えをまとめることが難しい。登場人物の気持ちと自分の考えを比べながら物語を読んだり、説明文の中で筆者の主張に対する自分の考えをまとめたりする学習活動が必要である。

算数について

- ・国語同様、A問題については県および全国平均と同等の結果である。「数量関係」については、県平均と比べて6.4ポイント、全国平均と比べて3ポイント上回っている。
- ・「数と計算」に課題が見られ、与えられた数量の関係を数直線上に表す問題では、県・全国平均を10ポイント以上下回った。
- ・B問題については、県および全国平均を5ポイントほど下回っている。問題の意図をつかむことに加え、数量を関連付け根拠を明確にしながらか述しなくてはならないところに苦手意識があると考えられる。

記述式で答える問題に関しては、無解答率が高くなっている。

理科について

- ・主として「知識」に関する問題については、県平均と同等、全国平均を4ポイント上回る結果であった。しかし、「活用」に関する問題については、県・全国平均を3ポイントほど下回っている。
- ・観点別に見ると、「観察・実験の技能」は県・全国平均を2ポイント上回っている。このことから、授業で行った実験の方法などが確実に身につけていると言える。
- ・基本的な知識は身につけているが、その知識を活用していく部分に課題が見られる。生活との関連付けを意識的に行うなど、授業の中での取組が重要になってくる。

【意識調査(5・6年)】

家庭での生活について

- ・朝食摂取率が高く、起床・就寝時間もきちんと決めている児童が多いことから、基本的な生活習慣が身につけていると言える。児童および保護者に対して継続して行ってきた「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけが、効果的であったと考えられる。
- ・自分で計画的に学習を進めている児童が84.8%と高く、県(69.1%)・全国(67.6%)を大きく上回っている。また、98%近くの児童が宿題にもきちんと取り組んでいる。家庭での学習時間についても、「1時間以上学習している」と答えた児童が72.9%と、県(64.6%)・全国(66.2%)を上回っており、学習習慣が身につけてきている。
- ・「家で学校授業の予習・復習をしていますか。」という質問に対し、「している」と答えた児童が52.5%と県(60.4%)・全国(62.6%)に比べ、低い値を示している。家庭での学習の内容の幅を広げさせることと、質を上げさせることが重要である。自主学习への取り組み方の指導を再度行う必要がある。

地域との関わりについて

- ・「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対し、「している」と答えた児童が81.3%と、県(72.4%)・全国(62.7%)を上回っている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対しても、「している」と答えた児童が61.1%と、県(50.1%)・全国(49.9%)を10ポイント以上、上回っている。このことから、地域とのつながりの深さや、地域の一員としての所属感の高さがうかがえる。これまでの、地域、家庭と学校が連携しながら児童の育成への取り組みが結果として表れている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践

- ・西部型授業を基本とした授業実践を徹底する。特に、本校の課題を解決していくために、学習過程の「まとめ」「ふり返り」の段階で、児童の「書く力」を付けさせることを教師が意識する。授業の中でポイントとなる言葉を児童に発表させ、そのキーワードを使って、自分なりのまとめやふり返りが書けるような指導を行う。
- ・「問われていることが何か」「必要な情報はどれか」などをつかめるように印をつけたり、「図・式・言葉」を関連付けて記入したりできるようなノート指導を行う。
- ・全体での話し合い活動の際には、ICT機器を使うことで全員が共通認識をもって話し合いに参加できるようにする。言葉だけでなく、視覚的にも確認しながら全体でのまなびを行う。
- ・教師の授業力向上のため、「授業づくりのステップアップ1・2・3」を活用した自分自身での授業評価を行う。

2 授業形態の工夫

- ・算数における基礎基本の定着のため、指導法改善担当を中心に各単元についての教材研究を行い、少人数での授業とTTによる指導を学習内容に合わせて選択していくことで、より効果的な学習を行う。

3 主体的な学びを促す環境の整備

- ・児童が身に付けなければならない学習用語をまとめ、教室に掲示する。大切な語句を確認するとともに、それを使いながら発言する意識をもたせる。
- ・児童の知的好奇心を高めるようなコーナーを設置する。(レベル別に数種類問題を準備し、自分で選択させたり、身近なものの単位を感じられるような掲示を準備したりするなど)

4 学び向かう態度の育成

- ・学習用具の確実な準備や時間を守ることを徹底させる。また、「挨拶、返事、言葉遣い」など、望ましい学習態度を身に付けさせるよう、全職員で取り組んでいく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 朝の時間に行う「花まるタイム」の実施方法や内容について定期的に意見交換を行い、学力の向上につながるよう学校独自に改善を図っていく。
- 2 家庭学習の習慣化、また、主体的に学ぶ力を身に付けさせるために、自主学習に取り組ませる。予習・復習の仕方を学年に応じて再度指導を行ったり、メニューの紹介をして取り組む内容の幅を広げさせたりすることにより、考えて学ぶ力や習得した知識や技能を活用する力を育成する。
- 3 毎月1日の「ノーテレビ・ノーゲーム」について実施を継続するとともに、家読の推奨(毎月1日)をする。
- 4 漢字検定、計算検定を年3回実施し、全員合格を目指す。昼休みに補充の時間を取り、全員を合格させることで、児童に達成感を味わわせる。
- 5 長期休業中の課題プリントを作成し、取り組ませるとともに、課題の提出を徹底する。
- 6 Q・Uテストの結果をもとに研修を行い、学級づくりの充実を図る。